

入れ歯が合わないとき

入れ歯の種類

入れ歯には、「総入れ歯」と「部分入れ歯」があります。総入れ歯はすべての歯を失った場合に使います。部分入れ歯は、失った歯の周りにある健康な歯に金具をかけて、人工の歯を装着します。

初めて入れ歯を使ったときに違和感があっても、多くの場合は2~3週間ほどで慣れて違和感は解消します。しかし、違和感がずっと続く場合や、長年入れ歯を使っていて、最近になって違和感が出てきてという場合は、入れ歯が合っていない可能性があります。

合わない入れ歯を使い続けるリスク

合わない入れ歯を使い続けていると、残っている歯に過剰な負担がかかり、残っている歯まで失ってしまうおそれがあります。また、入れ歯が当たって粘膜が傷つくことなどにより、義歯性口内炎を発症することがあります。

あごの関節にも負担がかかり、痛みを伴う顎関節症が起こることもあります。顎関節症が進むと耳鳴りや耳の痛みなども現れます。

さらには、合わない入れ歯が刺激となって、歯ぐきの骨が溶けていき、歯ぐきの粘膜がこんやくのようになくなってしまふことがあります。このような状態になると、入れ歯を安定させることは難しくなります。自分の入れ歯があっているかどうか、セルフチェックで確かめてみましょう。1つでもあてはまる場合は、入れ歯があっていない可能性があります。

入れ歯があっているかどうかのセルフチェック

- 噛んでいるときに、入れ歯がカタカタ鳴る
- 入れ歯を使って、ものを噛んでいると疲れる
- 入れ歯を使うと、痛くて噛めない
- 上の入れ歯が落ちてきたり、
下の入れ歯が浮く感じがする
- 入れ歯の金具と歯の間に隙間がある
- 入れ歯を入れると吐き気がする
- 味がよく分からなくなった
- 話しにくい



入れ歯が合わない原因

入れ歯が合わない原因としては、様々な原因でおこります。

■入れ歯の調整不足

入れ歯の上下の高さが合っていない、入れ歯の土台とあごの形状が合っていない、入れ歯の大きさが合っていないなどが考えられます。部分入れ歯の場合は、金具が弱くなって緩んでいる可能性があります。

■あごの変化

加齢とともに上あごや下あごはすり減っていく傾向があります。あごの形が変化すると、入れ歯が合わなくなってきました。

■入れ歯の変形

入れ歯は唾液に濡れている状態で使用するため、乾燥させると微妙に変形してしまいます。就寝中などの保管時は、衛生的な水の中に漬けておく必要があります。
長年使い続けていると、特に部分入れ歯の金具の部分が変形し、緩んでしまうことがあります。

■歯周病

部分入れ歯の金具がかかっている歯の周囲に歯周病が起これると、歯がぐらついて入れ歯を支えられなくなります。

■歯の移動

部分入れ歯の場合、残っている自分の歯と比べて「力が入らない」「異物感がある」ことから使わなくなってしまう人もいますが、部分入れ歯を使わないと残存歯への負担が大きくなります。その結果、歯が移動したり傾いたりして部分入れ歯が入らなくなってしまうのです。

■唾液の分泌量の減少

加齢に伴って、唾液の分泌機能は低下します。唾液の量が少ないと、入れ歯があごや歯ぐきに十分に吸い付かず安定しません。
また、唾液には粘膜を保護する作用があります。そのため、唾液の分泌量が減少すると、入れ歯が口の中で動いたときに粘膜が傷つきやすくなります。

自分に合った 入れ歯にするために

噛み合わせが悪い場合や入れ歯の大きさが合わない場合は、入れ歯のプラスチック製の床の一部を削ったり、逆に素材を足したりするなどして調整します。

患者さんのなかには、違和感を減らすために入れ歯を小さめのものにしたいと考える人がいますが、入れ歯は大きさがきちんと合っていることが基本です。歯科医師の指導に従ってください。

歯ぐきの粘膜がこんにゃくのように軟らかくなってしまった場合は、一定期間、入れ歯の内側に軟らかめの素材を入れておき、粘膜が回復して固くなるのを待ちます。これを「粘膜調整」といいます。個人差はありますが、通常は数週間かけて行われます。粘膜が良い状態になったら、入れ歯の調整をしたり、場合によっては新しい入れ歯をつくったりします。

■治療後の注意点

入れ歯は、使っているうちに不具合が生じた場合、そのつど調整していく必要があります。“多少の不快感や不便は仕方ない”と考えず、治療後も定期的に受診し、点検や調整を受けて、入れ歯を自分に合わせていくことが大切です

知っておこう

健康保険が適用される入れ歯は床がプラスチック製ですが、床が金属製の入れ歯は全額自己負担になります。金属製は費用は高くなりますが、薄く、形状も自由につくることができ、違和感が少ないのが特長です。

最近登場した「マグネットデンチャー」というタイプの入れ歯は、小型の磁石で入れ歯を安定させるものです。比較的小さく、部分入れ歯でも大きな金具を使う必要がありません。